

□2月4日礼拝説教(隅野徹牧師短縮版)
「試練の捉え方」(ヤコブの手紙1:1~8)

ヤコブの手紙はイエス・キリストの教えをなぞっている
と理解されていますが、今回の箇所の教えの基となっ
ているであろう、マタイ5章の幸いについての教えを
読むことで、より深い味わいを得られます。

4節では「忍耐することで、完全で申し分なく、何一つ
欠けたところのない人になります」と教えられていま
す。これは、ただ我慢をかさねることによって完璧な
人格になれるのだと教えているのではないことが、お
分かりいただけます。

マタイ5章の、イエス・キリストによる幸いの教えを
重ねてヤコブ1章4節を読むとき、何一つ欠けたところ
のない人になるというのは究極的な私たちのゴール、
つまり永遠の命を得て生きることを指していると迫
ってきます。その永遠の命は、私たちの力や努力で
得ることができるではありません。もちろん忍耐に
忍耐を重ねただけで得られるものではありません。
何一つ欠けたところのない人にして下さるのは…
私たちがどんなに罪深く神から目を背けるものであ
っても、それでも私たちを救おうと十字架にかかり、
復活して死の力に打ち勝ってくださったイエス・キ
リスト、このお方だけです。

私たちはこのキリストの恵みを知っていながら世の
価値観にながされ、神・キリスト以外のものに目が向
いてしまいがちです。順調なときは、神・キリストへ
の感謝に満ちていても、順調でなくなった時は、神
から離れてしまうのです。

順調でない時でも神・キリストに感謝し賛美しながら
生きていくのは本当に難しい、忍耐が必要だというこ
を今日の箇所も教えています。しかし苦しい時でも
神・キリストから離れず、曲がりなりにも耐えて歩む
なら、その先に天での、永遠の命の報いがあること
をぜひ忘れないで覚えていただきたいと思いま
す。苦難の多いこの地上での歩みですが、ぜひご一
緒に、将来与えられる豊かな祝福を見上げて、神
から離れず歩んでまいりたいと思えます。

(終)